

ART KISS LETTER

[アート・キッスレター]

FOR KUMAMOTO ART PEOPLE

Contemporary Art Museum, Kumamoto

熊本市現代美術館発行 <http://www.camk.or.jp>

vol.44

FREE

WINTER
[2009. 冬号]



九州ゆかりの日本画家たち 2009.10.10-12.6

10月10日より、市制120周年記念事業の一つとして「九州ゆかりの日本画家たち」展を開催しています。本展では、九州にゆかりのある日本画家14名の大正・昭和から現代に至るまでの107点を紹介しています。熊本市の名誉市民である堅山南風をはじめ、大分県出身の福田平八郎や、鹿児島県の奄美大島で活動した田中一村、高山辰雄、中根宏、また第二部として、熊本出身および在住の作家9名(大塚浩平、加来万周、川口恵、木村みな、佐藤和歌子、徳留永子、比佐水音、山下孝治、山本太郎)の近作によって活気ある現代の動向を伝えています。12月6日まで開催。(Y.H)

museum
information

熊本県現代 美術館の活動

学芸員実習が行われました

2009.8.19-8.30

本年度の学芸員実習は8月19日から30日までの10日間、崇城大学、熊本大学、お茶の水女子大学、武蔵野美術大学の8名の学生さんとともに実習を行いました。定番のAKL取材や、菊池恵楓園絵画クラブ訪問のほか、本年度の課題研究では、美術館フリーゾーン他のギャラリー・トークにチャレンジしました。10日間をスタッフの一員として、美術館という場所で過ごすことで、学芸員の仕事というもの的一端を感じてもらえたとしたら、たいへんうれしい限りです。(A.S)

ミュージック・ウェブNo.021 CAMK夏のピアノコンサートvol.7

2009.8.2

当館ボランティアCAMKEES(キャンキース)のピアノボランティアの皆さんによるピアノコンサートを開催しました。クラシック、映画音楽やジャズ、自作の曲など多彩なジャンルでお贈りしました。演奏前のトークでは控え目な皆さんですが、演奏が始まるとやはりピアニスト、魅力的な演奏でお客様のハートをしっかりと掴んでいました。(M.O)



ミュージック・ウェブNo.022 平井元喜ピアノコンサート&トーク

2009.8.23

世界で活躍されているピアニストであり作曲家の平井元喜さんをお迎えして、トーク&コンサートを開催しました。ご自身の作曲に関して、またこれまでの巨匠たちの曲についてのミニレクチャー、「花・風景」展にちなんでセレクトして下さった曲の演奏、睡蓮の花を描いたご自身の絵画が登場するなど、あっという間の90分となりました。(A.A)



ミュージック・ウェブNo.023 中川恵美里オータムコンサート

2009.9.23

「花・風景」展の千秋楽を飾るこの日、中川恵美里さんの声楽(ソプラノ)コンサートを開催しました。10代にしてめざましい活躍をされている恵美里さん。白いドレスに身をつつみ、生彩な瑞々しい歌声を披露してくださいました。「ちいさい秋」や「荒城の月」の日本の叙情曲から、明るく華やかなオペラやミュージカル曲まで、お客様も大変満足された様子。心に花が咲くような、陽気な午後のひとときになりました。(M.O)



STREET ART PREX 協働事業 EXTRAVAGANZA2009 2009.10.17

ストリート・アート・プレックスの一年間の集大成である音楽イベント、エクストラヴァガンザ2009。当館でも協働事業として、オランダを拠点に活動する即興音楽ユニット「Floating Worlds」の演奏と、ショパンの命日を記念して「ショパンメモリアルコンサート」をお贈りしました。

「Floating Worlds」

Floating Worldsは、今年日蘭交流400年を記念して、この熊本からツアーをスタートさせます。このユニット名には、「浮世」とか「浮遊する世界」という意味があるのだそうです。サクソ、クラリネット、ヴィオラといった西洋楽器と、尺八と箏といった和楽器、それぞれの音が折り重なって響き、新鮮な驚きにみちたひとときとなりました。

「Great Composer Memorial」ショパン

今年でショパン没後160年を記念して行われた「Great Composer Memorial ショパン」。今回は小学6年生から、プロの齊藤美紀さんまで、ショパンを愛するピアニストに名曲の数々を演奏していただきました。齊藤美紀さんの演奏中、当館ホームギャラリーに設置されている現代美術作品、ジェームス・タレルの「Milk Run Sky」の色が変わりだしてクライマックスを演出。現代美術とピアノのコラボレーションが実現して当館ならではのコンサートになりました。(M.O)



大巻伸嗣ワークショップ「花はどこへいったーヒミツのハナゾノ:熊本」

2009.8.9

「花・風景」展の出品作家、大巻伸嗣さんによるワークショップ「花はどこへいったーヒミツのハナゾノ:熊本」を開催いたしました! 参加者の皆さんが商店街に出かけていき、各お店を見学しながら、気に入ったモチーフを思い思いにスケッチしました。お店の皆さんとも会話が弾み、たくさんのスケッチが出来上がりました。スケッチをもとにデザインしたオリジナル花型を使って、顔料でフェルトに花を咲かせるミニ作品を作り、最後は展覧会場の大巻さんの作品の上に皆で花を咲かせました。会期中に商店街のお店に展示させていただいたミニ作品は、展覧会終了とともに、参加者の皆さんのご自宅へ。素敵なハナゾノは今も咲き続けていることでしょう。(A.A)



「花・風景」展1万人突破しました!

2009.8.26

美術館スタッフもそろそろかとドキドキして過ごした26日の午前中、「花・風景」展の入場者数が1万人を超えました。祝1万人目の親子は、急な出来事にビックリした様子。館長からは展覧会の図録やポスターなどの記念品が贈られました。(C.T)



フィジカルシアター・ワークショップ「遊んで創ろう!これがダンス?」

2009.9.20

イスラエルの舞踏団クリツパシアターのメンバーである河原田隆徳さんとゾーハウ・コーヘンさんを講師に迎え、フィジカルシアター・ワークショップを行いました。

フィジカルシアターとは、さまざまな演劇スタイルを交えた身体表現のことで、輪になってウォーミングアップから始まった身体を使って表現するユニークな、動きに子どもたちは大はしゃぎでした。最後のサプライズとして登場したビニール袋でできた大きな大きなバルーンに、キラキラと目を輝かせる子どもたちの顔が印象的でした。いつもは静かな図書室が、子どもたちのにぎやかな笑い声であふれる楽しいひとときとなりました。(S.Y)



「花・風景」展のクロージング・トークを行いました!

2009.9.23

「花・風景」展の最終日に、桜井館長によるギャラリー・トークを行いました。展覧会場に入ってすぐのクロード・モネのお部屋から始まったトークは、進むごとにたくさんのお客様に迎えられました。参加者の方々は、作家の人柄や生き様、また展覧会を開催するにあたっての苦勞など、普段はなかなか聞くことのできない企画者ならではの話を、興味深く聞いていました。最終日にふさわしいクロージング・トークとなりました。(C.T)



CAMK「読みがたり」第1回

2009.8.22

当館ボランティア、CAMKEES(キャンキース)による第1回「読みがたり」を当館キッズサロンで開催しました。テーマ「なつやすみ」に合わせてヒマワリがぐんぐんと大きく育つ絵本、リズムにのって体を動かす手遊び歌に、ご家族で楽しんでいただき、会場は大盛り上がりでした。(C.T)



CAMK「読みがたり」第2回

2009.9.19

テーマは「動物たちのお話」。手遊び歌である「てあらいのうた」から始まり、絵本ではネコやシマリスを始め、さまざまな動物たちと出会うことができました。初となった紙芝居「ねずみのよめいり」では、お話に熱中して前のめりになった子どもたちの姿が見られました。(C.T)



「九州ゆかりの日本画家たち」展アーティスト・トーク 2009.10.10

「九州ゆかりの日本画家たち」展初日に、出品作家である9名の現代作家によるアーティスト・トークを開催しました。会場には、開始時間前からトークを楽しみに沢山の方々が。

その光景を見て、緊張されたアーティストも…。

トークは作家それぞれの作品に対するこだわり、身の回りの物の捉え方など、お客様からの質問も交えながら和やかな雰囲気で行われました。終了後には、始めにもどり、もう一度展覧会をご覧になるお客様も多く見られ、アーティスト・トークを存分に堪能していただけたようです。(C.T)



開館記念講演会 岩井希久子 講演会

2009.10.12

毎年行われている開館記念講演会で、今年は熊本市出身の絵画修復家の岩井希久子さんにご来館頂きました。「絵画修復、そして修復家とは？」というテーマで、最先端をいく海外の修復の設備・体制や、巡回展での修復家の役割、そして岩井さんが手がけた数々の作品の実例が紹介されました。マーク・ロスコ、ゴッホ、モネ、そして千葉大で発見されたディズニーのセル画など、作品のオリジナルの輝き、作家の息遣いを継承していきたいという思いが伝わり、私たちの作品体験を大きく変えることにもなる修復の役割を改めて実感する機会となりました。(Y.H)



「九州ゆかりの日本画家たち」展 CAMKレクチャーカレッジ

2009.10.17

10月10日より開催している「九州ゆかりの日本画家たち」展にあわせ、当館主任学芸員の本田代志子が、「九州の日本画近代から現代へ」と題して、壺山南風、福田平八郎、高山辰雄などの展覧会出品作家についてお話ししました。(Y.H)



G3 vol.64 熊本映画館覚え書～あの頃映画は「たからもの」だった展

2009.8.5-10.4

昨年の「映画看板師～田上賢二展」に引き続き、CAMK映画企画第2弾「熊本映画館覚え書～あの頃映画は「たからもの」だった展」が開催されました。昭和30～40年代の市中心地の映画館マップを始め、数少ない当時の映画館の写真、映画館ごとに配布されていたチラシ、当時の映画看板など、映画が「たからもの」だった時代に瞬時にタイムトラベルできる品々が並び、皆さんの思い出(覚え書)を壁に展示していきました。徐々に増える覚え書が映画の底力を感じさせてくれた展覧会になりました。(E.Z)

「学校帰りにカバンを下げて入っていた「宝塚劇場」、スペクタクルものの迫力なら「大劇」、地下に降りて雑記帳を見るのが楽しみだった「シネロマン」、コンサートに行った記憶のある「テアトルデンキ」……。特別映画好きではなかったですが、ユニークな映画館がたくさんあって何気に観ることができた幸せな時代だったんだな～と。もっと以前の知らない映画館の写真も興味深く拝見しました。」(覚え書より)



月曜ロードショー番外編 「名もなく貧しく美しく」

2009.9.6

「熊本映画館覚え書～あの頃映画は「たからもの」だった展」関連イベントとして、「名もなく貧しく美しく」をフィルム上映しました。主役が聴覚障害者というこの映画は、手話のシーンに字幕がついて当時画期的な作品だったといえます。今回の上映では、手話のシーン以外にも、字幕サークルおむすびさんに日本語字幕を付けていただきました。聴覚に障害をもつ夫婦。その生きざまに心揺さぶられます。カメラアングルも秀逸で息をのむほど美しいシーンの連続。まさしく「たからもの」にふさわしい作品でした。(M.F)

盆栽という名の宇宙 vol.6 - 日本盆栽協会熊本支部銘品展を開催されました。盆栽を育てるためには手間と時間と愛情が必要。会場には盆栽協会の皆さんが手塩にかけて育てられた五葉松、山もみじ、さんざし等が特な空間を演出してくれました。また、「盆栽相談コーナー」も設けられ、椿の葉を艶やかにするにはビールで濡らせた布地で拭くとよいなど、さまざまなお話を聞くことができました。会期中に赤く紅葉する楓も見られ、美術館で日本の秋を感じることができました。(C.T)



G3 vol.66 熊本市名誉市民展 2009.10.17-11.2

熊本市制120周年を記念して、熊本市名誉市民展が開催されました。開会式には、30年ぶりに名誉市民として顕彰された歌人・書家の安永菫子さんにご出席をいただきました。熊本名誉市民9名の功績を、ゆかりの品々とともにご紹介するとともに、熊本市制120周年を記念して、これまでの熊本市の歩みをビデオで上映しました。(A.A)



高嶺格さん熊本・松江視察 2009.9.25-27

2009.9.25-27

来年夏に向けて準備を進めている小泉八雲を記念する展覧会の視察のため、国内外で活躍するアーティスト高嶺格さんが熊本と松江を視察しました。熊本では、小泉八雲旧居、熊本大学五高記念館、立田自然公園などを視察、松江では小泉八雲記念館や旧居、ゆかりの寺院や神社、当日開催されていた小泉八雲のテキストのスピーチコンテスト「ヘルンをたたく青少年スピーチコンテスト」などを視察、展覧会開催にむけた新作制作のインスピレーションをひろげていました。(H.T)

*写真キャプション：視察の合間のほっと一息。同展出品予定作家の鈴木淳さんも同行中。



花・風景展

- 体中で体感できました。(22歳、女性、大阪府)
- 名知聡子さんを知ったことが収穫。若い方なのに生きることを問うている。もっと沢山見たい。(50歳、女性、奈良県)
- 会場内の雰囲気も落ち着いておりストレス解消できた!(46歳、女性、山口県)
- エントランスの花のカーテンから、展覧会の一部を表現していてとても良い。(39歳、女性、熊本市内)

- 入口付近に大きな布の作品(花景)があって、展覧会を観ない人も楽しめていいと思います。(24歳、女性、熊本市内)
- どの作品も作者の想いが伝わってきました。クロード・モネの「ルエルの眺め」が特にきれいだった。(13歳、女性、熊本市内)
- もうあと数点あれば満足です。もっと各々のアーティストの作品をみたかった。(25歳、男性、福岡県)

九州ゆかりの日本画家たち展

- 九州出身の特に若手の発掘に力をいれていってほしいのが良く分かりました。(64歳、女性、福岡県)
- 個々それぞれの特徴があり印象的でした。同世代の方の絵もあったことにびっくりしました。(27歳、女性、熊本市内)
- 高校の後輩が活躍していることを知りよかったです。これからも地元出身の展覧会をどしどし開催してほしい。(54歳、男性、熊本市)
- 若手作家の展示の場を提供している点が素晴らしい。(25歳、男性、熊本市内)

- 田中一村の絵が素晴らしいとおもいました。一つだけだったので、他の作品もぜひ観たいと思いました。(56歳、女性、熊本市内)
- 若い方々の作品、うらやましいです。自由で、すがすがしい作品でした。今後のご活躍を期待します!(49歳、女性、熊本県内)
- 日本画はそう見ないので今回の展覧会は非常に刺激を受けました。日本画のよさが見えたと思います。(19歳、女性、熊本県内)

館内について

- いつもどの美術館に行っても思うのですが、高齢化が進んでおり、ちょっとしたところに手すりをつけるとお年寄りも安心して利用できると思います。(46歳、女性、山口県)
- ギャラリーなのに、誰でも自由に過ごせるスペースがあるのがいい。幼児も中高生も、美術や作品に興味のない人もふらっと来て楽しくすごせる。(44歳、女性)

- 開館記念日の無料開放はとてありがたい。(64歳、女性、福岡県)
- 20時まで開館しているので仕事帰りに寄って見られるのが良いです。(27歳、女性、熊本市内)
- いつも草間彌生の作品を観ます。何度みても感動です。宇宙を想像します。(69歳、女性、神奈川県)

Visitor's Letter

来館者のみなさんからのメッセージ

アンケートに寄せられた感想(抜粋)を紹介いたします。

アート・ギャラリー 熊本県立美術館

熊本県立「アート・ギャラリー」の意です

今回は、学芸員実習のみなさんにも、ギャラリー取材にトライしていただきました。執筆者は以下の通りです。

上原希理子(K.U)
榎木 彩乃(A.E)
北畑 衣理(I.K)
木下 優里(Y.K)
橋本 真宏(M.H)
原口 奈々(N.H)
宮村友里江(Y.M)
森 梓(A.M)

アサヒ鉄工展

2009.8.6-8.6 鬼塚時計店跡
熊本市南坪井町9-7

大津町で「アサヒ鉄工」を営む、ZUBEこと藤本高廣さんの鉄の作品展示。上の裏通りを中心に個性的な建築を手がける、サンワ工務店施工のブティックや飲食店で、籠などの動物や、抽象的なオブジェを目にした人も多いだろう。そのいずれもが、このZUBEさんの作品である。見る人によっては廃品にしかならないもの、打ち捨てられた工業製品を組み合わせ、洒落を効かせて、再び蘇らせるのがその生業である。この暑い夏に、いったいどれだけの温湿度と格闘しながら、2階建のスペースがいっぱいになる量の作品が作りだされたのか。考えるだけで気が遠くなるような、尊い仕事の結晶である。(S.A)



第22回 GROUP「愚」作品展

2009.8.11-8.16 熊本県立美術館 分館
熊本市千葉城町2-18 TEL:096-351-8411

福岡教育大学書道科卒業生3人による書作品展である。「愚」とは自分達のありのままを表現しようという意味だという。宮田祐子さんは「三十帖策子」の古典の臨書をまじめに大きく書いている。北大路魯山人のこぼを赤い魚の絵に調和よく力強い線質で書いていた。中原啓子の詩「あたひ」を淡墨で童謡風な文字が白パネルによくあっていた。右谷展子さんは争座位稿の古典の臨書を忠実に扁額にしている。「思うは招く」という植松努のこぼをはげしい筆さばきでうまくまとめていた。山西寿子さんは依万智の歌を、自分の子供の足跡とまるいグリーンの絵具とマッチさせた文学を面白く見せていた。3人も真摯な古典臨書とカラフルな創作を加えた三様の表現が明るく楽しい会場となっていた。(S.K)



第37回 熊本県書道連盟展

2009.9.29-10.4 熊本県立美術館 本館
熊本市二の丸2 TEL:096-352-2111

県文化協会と共催するこの書道展は県下で最大の総合書展である。漢字、かな、調和体書、篆刻、少字数書など、252点がそれぞれに個性を競っていて、多彩な表現が見られた。今年は、選抜会員と一般会員で優秀作品に書道連盟賞や優秀賞等が贈られた。入賞作品は線がすどく、強くて、リズム感もあり若さを感じられた。書道連盟賞は、古閑静彦(漢字)、山本徳舟(かな)、川上英子(調和体)である。特別展の「近代書人の書」は、熊日書道展の審査員を長くつとめた木村知石さんをはじめ上田桑鳩、北村九郎、小澤神魚、安東聖空、殿村藍田、須崎海園、劉蓋屋、梅舒逸、成瀬映山、上條信山、山崎大抱の12人の有名な書家の額や軸も展示されていた。(S.K)



時展

2009.8.18-8.23 崇城大学ギャラリー
熊本市花畑町 TEL:096-323-1158

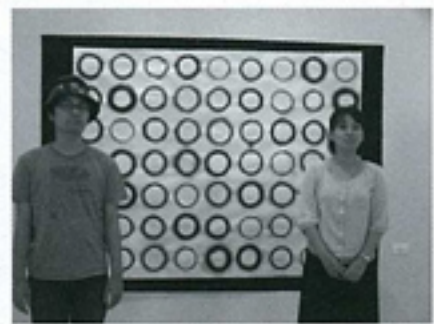
崇城大学・芸術学部生の有志11名によるグループ展。メンバー11名と、来場者となるあなた(わたし)をいれることで12名となる。そこで、「12」という数字に着目し、時計の数字や、一年間の月の数など時間を表すものが「12」に関係していることから、今回のテーマを「時」とおいたという。洋画・日本画・写真・イラストレーション・プロダクトデザインなど様々な方法で自分が思う「時」を表現している。美術科の学生4人の合作として、「春の鳥」「夏の花」「秋の風」「冬の月」の4点がある。これは春夏秋冬という日本ならではの季節・時のながれと、花鳥風月という美しさを表す言葉に美術と繋がりを感じたことから、2つのテーマを組み合わせた作品となっている。また、4点が並ぶことでそれぞれのタッチや色使いによる個性、作品の美しさが際立っている。会場内は、静けさの中に時計の音が響きわたっており、まるで別世界にいるような心地よい空間が作り出されている。(A.M)



「風のいろ KUMAMOTOKINAWA」

2009.8.18-8.30 ギャラリーカフェ ト
熊本市上通町5-46上通イーストインビル3F TEL:096-352-7162

熊本や沖縄出身の6人の若者によるグループ展。その中心は、現在教員をやりながら沖縄で制作活動を行っている児玉桂さんだ。今回は沖縄を中心に精力的に作品を制作されている奥さまの児玉美咲さんと一緒に開いたグループ展。熊本出身の彼は、大人になって記憶の彼方に消えてしまった熊本(記憶)と、現在生活の拠点となっている沖縄(日常)をつなげたいという思いからこのグループ展に着手した。窓辺に展示された「a long time-あっちー」は、薄い布を染色し、布越しに見える「あちら側」と「こちら側」との不思議なつながりを見せてくれる。沖縄生活と熊本の家族の生活を映し出した「25年」では、時間的、空間的に離れた場所での生活が同時に移される違和感に面白みを感じるはずだ。「足元の風景」は、ブルーの丸がいくつも連なり、近づいたり遠のいたりすることで見る人にさまざまな見方を与えてくれる。その他、風景画や鉄を用いた作品など、ジャンルの違う6人の若者が、「日常と記憶のつながり」をテーマに魅力的な作品を展示している。(Y.M)



お知らせ

2009年10月12日、開館7周年記念にあわせまして、当館ホームページがより使いやすくリニューアルされました。ぜひクリックしてみてくださいね!

<http://www.camk.or.jp>

パステル番長展 参上編

2009.8.8-8.23 Private Lodge
熊本市上林町3-33 TEL:096-323-3551

熊本出身の画家である、櫻井栄一さんの個展。ナイトクラブの若者がモチーフの人物画を中心とした6点を展示しており、内3点は熊日デザイン賞文部科学大臣賞(2009年)の受賞作品であった。色とりどりの自由なファッションに身を包んだ若者が、パステル独特の柔らかな雰囲気の中で描き出されている。絵も店内のやさしい照明に照らされている。がしかし、クラブの躍動的でエネルギッシュな雰囲気や、若者のキラキラとしたパワーを感じるところがとても印象的であった。「今の時代を美しく画面に刻みつける」という信条そのままの、今を生きる若者の「雰囲気」というものをパステル画という手段でうまく表現された作品であると思った。櫻井栄一さんは熊本各地でイベントや個展を開催するなど県内で積極的に活動しており、これからも彼の作品に触れあえる機会は多々あるはずだ。ぜひ機会があれば見てもらいたい。(A.E)



グループジェイ作品展

2009.8.11-8.20 画廊喫茶ジェイ
熊本市大江本町6-9 TEL:096-372-8732

画廊喫茶ジェイで開催されたグループ作品展。出展された方の多くは、喫茶ジェイで絵画を描いているとのこと。作品は油絵1点と水彩画13点の計14点。テーマは特になくということ、街や野菜、植物など、多種多様性と水彩画独特の淡い雰囲気が感じられる、写実的な作品が目立った。ここ喫茶ジェイのママである永田順子さんは「山里の贈り物」という題で、F100号の大きなキャンバスに枯れた「とうもろこし」を描いており、その深い色使いと油絵の具独特の匂いに、半年かけて制作したという「とうもろこし」の、枯れていく経過が深く刻まれた作品であった。喫茶ジェイは、店内ではレトロなジャズが流れ、木でできた家具が醸し出すほんわりとやわらかな雰囲気があり、水彩画の淡い色使いとマッチして、心地よい一体感を生み出していた。取材中、ママの馴染みの方が訪れたり、お向かいのお店の方が作品を見に立ち寄りたり、という場面に遭遇。人々がふらっと立ち寄れる画廊喫茶ジェイは、なんだかあったかい。10日ごとに作品を入れ替えているというお話なので、ぜひ1度お茶をしながら、ゆっくりと作品を眺めに訪ねてはどうだろうか。(N.H)



第1回 人吉高校同窓会展

2009.8.12-8.20 カフェギャラリー三点鐘
熊本市手取本町3-8-3F TEL:096-326-3040

人吉高校同窓会によるグループ展。パートIでは県外または人吉在住の卒業生の、パートIIでは熊本市在住の卒業生の自信作が展示されている。作品は多様で、水彩、油彩、書、写真、工芸などがある。その中で曾我恵美さんの桜を描いた二つの水彩画は、昼間のさわやかな陽気に包まれる桜と、夜中のしっとりとした艶っぽく佇む桜の二面性が配色と筆づかいで見事に表現されている。陸の孤島と呼ばれ、鎌倉時代から独自の文化を培ってきた人吉は、自然も豊かでまさに山紫水明という言葉があてはまる。そのような場所で感性が磨かれ、豊潤な土壌が芸術家を育てているのである。それと同時に、そのような場所に対して育ててくれたことに感謝し、何か恩返しをすることも大切であると、オーナーの小山淡花さんは語っている。店内にはオーナー作詞作曲の曲が流れ、そのCDの売り上げは地元人吉の植林活動に使用し、その際にはオーナー自らが赴く。今回が初のこの展示会は来年の同じ時期に第2回を予定しており、次はどのような作品に出会えるか楽しみである。(M.H)



第18回卒 熊本大学教育学部美術科 同期生展

2009.8.11-8.20 画廊喫茶南風堂
熊本市北千反畑町5-13 TEL:096-343-9664

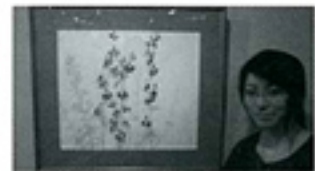
卒業して38年が過ぎ、いろいろな展示会に出しているが、今回この7名で展示会を開くのは初めてだ。それぞれが作品を出し合い、計19点を展示していた。彼らは卒業後、全員が美術の先生として働き、生徒たちに教えながらも描き続けていた。美術を学ぶ側から、教える側になった彼らは、長い間、美術の世界に生き続けている。その長い年月により、彼らが描く絵は、自分が表現したい思いがはつきりとしていて、そしてしっかりと自分の描き方で思い思いに描きだしていた。そのため、その作品たちを眺めると、それぞれの思いが自然と伝わってきた。今回、アットホームな画廊喫茶南風堂で行われており、自分たちの描いた作品に囲まれながら、色々な話をする彼らはとても楽しそうであった。ほとんどが先生を退職しているそうだが、彼らはおそらくずっと美術の世界を歩き続けるのだろう。そんな自分たちの好きなことをずっと続けているのを見て、私は心からうらやましいと感じた。(K.U)



「季節の花」水彩画展

2009.8.19-8.24 アートスペース大宝堂
熊本市上通町5-6 TEL:096-354-2155

崇城大学を2年前に卒業し、今回で2回目となる松永あかりさんの個展。在学中は主に油絵を、気の向いたときに水彩画を描いていたという。水彩画ということで繊細なタッチを思い浮かべていたが、松永さんの作品はどこか生き生きとした鮮やかな雰囲気を醸し出していた。昔と比べて比較的新しい作品になると、色の表現が非常に豊かになってきており、個性が存分に発揮されていることがうかがえた。松永さんが今回挑戦したという日本画が2点出品されていたのだが、そのうちの水彩画で描かれた「白い樹」は、以前の作品とはいえ圧巻の存在感で展示を締めくくっていた。また松永さんは1度描くのを諦めた花に翌年機会があって再挑戦したそう。その時に以前よりも筆が進み、自分の表現力が1年でどれほど成長したかを感じたという。このように成長を実感することはまだまだこの先いくつもあると思う。松永さんの今後の更なる活躍が期待できそうだ。(I.K)



博多織 布礼愛づくり展

2009.8.18-8.23 伝統工芸館
熊本市千葉城町3-35 TEL:096-356-4721

760年の歴史を持ち、有名な織物の一つである博多織を扱う博多織元(有)後藤の展示。伝統的な博多織だけでなく、着物を着る機会が少なくなってきた現代において、進化しつつある博多織を、より多くの人に知ってもらいたいと語っていた。これまでは絹で作られる着物の帯が主流であったが、洋服や傘など、博多織を様々な物に展開している。洋服は、博多織の光沢ある風合いのモダンな服や、手織りでの一点物のジャケットやドレスなど、現代に馴染む、上質な印象を受けた。名物裂という文様で織られた布地の傘もあり、他には新しい試みも多かった。帯地バッグや、小物入れなどもあり、販売されている。伝統ある織物が新しい形で、より幅広い層の人たちに浸透して、日常生活にも溶け込んでほしいと感じた。(Y.K)



岩本武士書作展

2009.8.25-8.30 熊本県立美術館分館
熊本市千葉城町2-18 TEL:096-351-8411

県立高校の書道教諭であった熊本市在住の岩本武士(竹田)氏の、隔年開催の個展である。個展の隔年開催はかなりハードスケジュールであるが、隔年開催を宣言した岩本氏の頑張りには敬服に値する。本人のコメントに「見飽きがしないように、広い分野に亘って取り組みたい」「表具は自分でする」「来場者との対話を大切にしたい」とある。題材選びに意を用いているし、作品の横に、丁寧な、そして、ひとりごととも言える親しみを込めた来場者への呼びかけの言葉が添えてあるので、参観者にも分かりやすく、気楽に鑑賞できるようである。常連の来館者に、「ドキッとするような作品が見たかった」と評されたそうだが、斬新な発想はそうたやすいことではない。しかし、回数を重ねると、似たような作品を並べると、発表者も参観者も抵抗感が生ずるようになるので、今後岩本氏がどう展開を図るのか注目したい。(T.M)



兼城昌山とそのグループ展(書)

2009.8.25-8.30 熊本県立美術館分館
熊本市千葉城町2-18 TEL:096-351-8411

熊本県書道連盟会長の兼城昌山氏が、その門下生と、NHK、熊日、中央公民会の各書道講座の受講生をまとめた、年に一回の書道展である。兼城氏の力作数点と49名の会員が各1点を出品していた。一字を題材に、滲みを強調したやわらかい淡墨の大作や、重厚な迫力を追求した濃墨の大作を中心に、条幅半切の二行書きや小品を交えて、変化のある展示を工夫していた。一字を題材にした所謂「少字数作品」は、恐らくマンモス展の「毎日書道展」に出品して実績を挙げたものと思われる。線の線度も高く、造形的なバランスもよく、安定感が見られる。出陣作品の中に、かなりの高齢者の作品も含まれていたようである。指導者も受講者もそのご努力に敬意を表したい。高齢者の生き甲斐対策の一環として有効であれば嬉しいことである。(T.M)



1. ソンゴク村のおばあさんが作ってくれた夜ごはん / 2. 道路沿いに広がるヤンジ村 / 3. 山間に広がる信生農園 / 4. 自分の住んでいる部屋まで案内してくれるおばあさん / 5. 愛楽園のおばあさんがカレンダーの裏に描いた絵

韓国定着者村訪問記 2009.8.10-18

2007年の開館5周年記念展「ATTITUDE2007 ~人間の家 真に歓喜に値するもの~」の調査で韓国のソロクト更生園を訪れたときに出会った金新芽さんとの約束を果たすため、今年も韓国の定着者村(注1)の作品調査を行った。昨年ワークキャンプで訪れたソンゴク村の他に3ヶ所の定着者村と日本の療養所に近い施設である愛楽園での調査を行った。そのときの様子を簡単に報告したい。

まず最初に、昨年の夏にワークキャンプを行ったソンゴク村にお礼を兼ねて訪れた。韓国の定着者村は山間であったり、町から離れた場所にあることが多いが、ソンゴク村は割と町から近い場所にある。1年ぶりに訪れた村の近くには大きな幹線道路ができていて、村の元代表の女性が「これで少し土地の値段が上がるといいのだけど」と話していた。定着者村では養鶏で生計を立てている人が多い。ソンゴク村も同様で、80歳近くのおじいさんやおばあさんが何百何千という鶏の世話をし、卵を運び生活している。目や手足に後遺症を抱えての重労働は想像を絶するが、設備投資の際の借金を返すために働いていると話してくれた。昨年訪れた時に、絵を描いたり、物を作ったりしている人はいないか調査したが、「生きていくのに、子供を育てるのに精いっぱい絵を描く暇などない」(注2)と言われ、回復者で創作活動を行っている人はいなかった。

次に訪れたのは、信生農園。この村も主に養鶏で生計を立てていた。元代表のおじいさんに絵を描いている人はいないか尋ねたところ、ソンゴク村同様、「そんな余裕はなかった」とのこと。おじいさんの家で朝食をごちそうになったが、息子さんたちの写真に加え、お孫さんの写真を所狭しと飾ってあるのがとても印象的だった。

信生農園から釜山への帰り道に寄ったのが、テグにあるエンマ病院。ここには「ATTITUDE2007」で調査に行った途中に立ち寄りお話を聞いたおじいさんが入院している。またこのエンマ病院の皮膚科の先生は自身も回復者でありながら70歳

を超える今でも現役で治療にあっている。その先生は若い頃から絵を描くのが好きで、今でも暇を見つけては絵を描かれているのでその最新作を見せていただく。風景画が多いが、クリスチャンが多い回復者のために、イエス像を何枚も描いてあげたと話されていた。

次の日に向かったのがヤンジ村と信生農園。ヤンジ村は道路沿いに細長く集落が続いていた。昔使っていたと思われる養豚跡があったが、最近では高齢化が進み養豚や養鶏などの重労働はできないため、山の斜面を利用して果樹栽培を行っているとのこと。この日は日本でいう終戦記念日(韓国では「光復節」という祝日)で、村人のほとんどが村の近くの集会場のような場所にその行事のため集まっていたようで、残念ながら村人に会う事はできなかった。次に向かった信生農園は山間の村で、村の入り口に病院があり、村人以外の人達も近くに病院がないため診察に訪れるそう。ここで働くお医者様も回復者の方だった。村の中心にある福祉棟のような建物には1部屋に2人ずつ住んでいて、そこに住んでいる片足が義足のおばあさんは、ソロクトでつらい経験をされていたようで、「二度とソロクトには戻りたくない」と強くおっしゃっていた。この村でも絵を描いたりしている人はいないとのことだったが、日本の療養所では見かけることのない小学生くらいの子供もたちが車の近くに走り寄ってきて、おじいさんたちに教わったのか「さよなら」と手を振ってくれた。こういう瞬間に日本と韓国の違いをまざまざと思知らされる。

最終日にはエンマ病院と同じテグにある愛楽園を訪ねた。ここは日本の療養所に近い施設なので、ここには絵を描いている人がいるかもしれないという期待を持って向かった。想像していた場所とはまったく違った街中にある愛楽園に足を踏み入ると、100年もの間愛楽園を見つめてきた立派な教会が出迎えてくれた。現在は28名の回復者が暮らしている。その牧師さんに教会を案内して

もらう。教会の壁には刺繍でイエス様を描いた作品がかけられていた。韓国で何度もなく口にして同じ質問を期待を込めて投げかけてみる。すると「絵を描いている人がひとりいたなあ。電話をかけてあげよう」と連絡してくださり、すぐにおばあさんが教会まで来てくれた。そのおばあさんに絵を見せてくださいとお願いすると、「人に見せるような絵じゃない」とテレ笑いしながら住まいまで案内してくださった。一人用のその部屋には、カレンダーの裏に植物の絵を墨で描いた作品が壁に飾ってあった。若い頃から描いていたというわけではなく、2年前から描き始めたという。そのことを裏付けるように2007年と2008年のカレンダーの裏に描かれていた。墨一色で描かれているがときどき花の部分に赤のサインペンで彩色されていてかわいらしい絵だった。また、教会の1階にある資料室には歴代の牧師さんの写真や過去に治療に使われていた薬品や機材と一緒に、以前住んでいた方によるものと思われる油絵が1点壁にかかっていた。壁になっているイエスの姿だったがサイズは小さいものの力強い作品だった。

昨年訪れた時は、エンマ病院で働く先生以外の作品はないのかもしれないと諦めかけていたが、歩けば歩くほどいろんな発見があり、今年は愛楽園のおばあさんの絵と教会の油絵と出会うことができた。動くことを厭わず探していけば、絵以外の作品も見つかるかもしれないという希望が今回一番の発見だったかもしれない。(E.Z)

(注1) 韓国ではハンセン病患者のことを回復者と呼び、回復者が暮らしている村をこう呼ぶ。

(注2) 韓国の定着者村では日本と違って子供を産んで育てることができた。そのかわり国からの援助はなく、自給自足の生活を強いられた。

*昨年のワークキャンプで知り合った、定着者村を調査している大学院生の大町麻衣さんに通訳していただきました。末筆ながら感謝申し上げます。

編集後記

今年も残すところあとわずかになりました。2009年のAKLは、日比野克彦さん、井上雄彦さん、大巻伸嗣さんたちに表紙を飾っていただきました。振り返るととってもゴージャスです。バックナンバーは当館HPでも確認できますので、AKLを通じて、それぞれの作家さんたちの素顔をチェックしてみてくださいね!

編集長 富澤治子

「知られざる日赤の歴史」展準備で奮闘する中、息抜きがてら日本画展の会場内を一巡り。一筆一筆の美しさに湧き上がるような感動を覚えて元気をもらいます。来年はどんなアーティストや作品に会えるのでしょうか。今年も残りわずかとなりましたが、来年もAKLをどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

担当 大岩みゆき

- 発行元/ART KISS LETTER アート・キッス・レター Vol.44 2009年12月発行(冬号) 〇無料〇
- 発行人/桜井 武 編集長/富澤 治子 担当/大岩 みゆき
- デザイン/(有)松永 社デザイン事務所 ●印刷/シモダ印刷
- 発行/熊本市現代美術館 〒860-0845熊本市上通町2-3 TEL.096-278-7500 FAX.096-359-7892

- 執筆者一覧
- *ギャラリー取材原稿の文末にイニシャルにて記載しております。

- 兼城昌山
Syozan Kaneshiro (書道家)
- 森山淡草
Tanso Moriyama (書道家)
- 本田代志子
Yoshiko Honda (熊本市現代美術館主任学芸員)
- 羅座江美
Emi Zoza (熊本市現代美術館学芸員)
- 富澤治子
Haruko Tomisawa (熊本市現代美術館学芸員)
- 坂本顯子
Akiko Sakamoto (熊本市現代美術館学芸員)
- 芦田彩葵
Aki Ashida (熊本市現代美術館学芸員)
- 矢加部咲
Saki Yakabe (熊本市現代美術館学芸アシスタント)
- 大岩みゆき
Miyuki Oiwa (熊本市現代美術館学芸アシスタント)
- 藤本真帆
Maho Fujimoto (熊本市現代美術館学芸アシスタント)
- 高橋知江
Chie Takahashi (熊本市現代美術館学芸アシスタント)